

令和 7 年度

文学部第 3 年次編入学者選抜学力試験問題

専門科目

言語文化学科 日本アジア言語文化学コース

注 意

1. 解答は、別冊の解答用紙の所定の解答欄に書くこと。
2. 問題は、I～IIIの3題ある。
I _____ 国語学
II _____ 古文
III _____ 漢文
3題とも解答すること。
3. 総ページ数 _____ 4ページ
問題ページ _____ 第2～第4ページ
(第1ページは白紙)
4. 試験終了後、この冊子は持ち帰ること。

I 次の間に答えよ。

問一 「ハ行転呼」という現象について、具体例を挙げつつ、説明せよ。現代語、古典語の両方に触れること。

問二 古典語の「雨降れば」と「雨降らば」の違いを文法的に説明し、現代日本語では「雨が降れば」という言い方しかないことについて、古典語と現代語を対照しつつ説明せよ。なお、具体的な活用形の名称も必ず含めること。

問三 左に挙げる資料について、答えよ。

(a) この資料の著者を答えよ。

(b) この資料の特徴を、左図①～④を参考に説明せよ。その際、日本の古辞書の歴史に触れつつ、それと対照して説明すること。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

II つぎの文章は『無名草子』の一節で、女房たちの談話の場面である。これを読んで、後の間に答えよ。

また、

「この世に、いかで、かかることありけむと、めでたくおぼゆることは、文にこそ侍るなれ。『枕草子』に返す返す申して侍るめれば、事新しく申すに及ばねど、なほいとめでたきものなり。遙かなる世界にかき離れて、幾年逢ひ見ぬ人なれど、文といふものだに見つれば、只今さし向かひたる心地して。なかなか、うち向かひては思ふほども続けやらぬ心の色も現はし、言はまほしきことをもこまごまと書きつくしたるを見る心は、めづらしくうれしく、あひ向かひたるに劣りてやはある。

つれづれなる折、昔の人の文見出でたるは、ただ

「のをくのナリ」といふ

まして亡き人などの書きたる物など見るは、いみじくあはれに、年月の多く積りたるも、只今筆うち濡らして書きたるやうなるこそ、返す返すめでたけれ。³ ただし向かひたるほど的情けばかりにてこそ侍れ、これは、昔ながらつゆ変ることなきも、めでたきことなり。⁴ いみじかりける延喜・天暦の御時の旧事も、唐土・天竺の知らぬ世のことも、この文字といふものなからましかば、今の世の我等が片端もいかでか書き伝へましなど思ふにも、なほかばかりめでたきことはよも侍らじ。」

と言へば、また、

「何の筋と定めて、いみじと言ふべきにもあらず、あだにはかなきことに言ひ慣はしてあれど、夢こそあはれにいみじくおぼゆれ。遙かに跡絶えにし仲なれど、夢には関守も強からで、もと来し道もたち帰ること多かり。昔の人も、ありしながらの面影を定かに見ることは、ただこの道ばかり侍り。上東門院の、『今はなきねの夢ならで』と詠ませ給へるも、いとこそあはれに侍れ。」

など言ふ人あり。

また、

「あまた、世にとりていみじきことなど申すべきにはあらねど、涙こそ、いとあはれるるものにて侍れ。」

(注) ○『枕草子』――二二一段に「めづらしと語るべき事にはあらねど、文こそなほめでたきものなれ。」とある。

○上東門院——藤原彰子。

○今はなきねの夢ならで――逢ふことも今はなきねの夢ならでいつかは君をまたは見るべき(新古今和歌集 八一一)。

問一 傍線部1について、

(a) 現代語訳せよ。

(b) このように述べるのはなぜか、理由を説明せよ。

問二 文中の影印部分について、適宜濁点を補って翻字せよ。

問三 傍線部2について、「亡き人などの書きたる物」が「いみじくあはれ」と感じられるのはなぜか、説明せよ。

問四 傍線部3について、「これ」が指示示す内容を具体的に明らかにしつつ、わかりやすく解釈せよ。

問五 傍線部4について、現代語訳せよ。

問六 女房たちの談話の主題はどのようなものだと考えられるか、説明せよ。

問七 中古文学作品と、『無名草子』の関係性について知るところを述べよ。

III つぎの文章について後の間に答えよ。ただし、設問の関係で返り点・送りがなを省いた箇所がある。

齊桓公好^ミ服^{スルヲ}レ紫^ヲ、一國^A尽^ス服^レ紫^ヲ。當^ニ是時^{一也}、五素不^レ得^ニ一紫^ヲ。¹桓公患^レ之^ヲ、謂^{ヒテ}二管仲^ニ曰^ク、「寡人好^ミ服^{スルヲ}レ紫^ヲ、紫貴^甚、²一國^ノ百姓好^{ミテ}服^レ紫^ヲ不^レ已^ニ、寡人奈^何。」管仲曰^ク、「君欲^レ止^レ之^ヲ、³何不^ニ試^ス勿^レ衣^レ紫^也。」謂^{ヒテ}左右^{一曰}、「吾甚^ダ惡^ニ紫^之臭^一。」^B於是^ニ左右^C適^有二衣^レ紫^而進者^一、公必^ズ曰^シ、「少却^レ、吾惡^ニ紫^臭一。」公曰^ク、「諾。」⁴於是^ニ日^{一郎中}莫^レ衣^レ紫[、]其明日^{國中}莫^レ衣^レ紫[、]三日^{境內}莫^レ衣^レ紫^也。

(『韓非子』による)

(注) ○齊桓公——春秋時代の者の君主。○一國——この「國」は、齊の都を指す。

○五素不得一紫——素は白絹。五倍の白絹と交換でも、紫の布地が手に入らないこと。

○管仲——齊の宰相。

○寡人——諸侯が謙遜してもらひる自称。○郎中——近侍する官人。

問一 二重傍線部A～Cの文中での読みを、ひらがなのみを用いて示せ。

問二 傍線部1について、何を「患」いたのか、簡潔に説明せよ。

問三 傍線部2を現代語訳せよ。

問四 傍線部3を漢字かなまじりで書き下せ。

問五 傍線部4はどういうことか、簡潔に説明せよ。

問六 この説話は、君主にどのようなことを戒めようとしたものだと考えられるか、説明せよ。